

北海道

みなとまち紀行

苫小牧編②

第 6 号

■苫小牧編②

♪しぼったばかりの夕陽の赤が～で始まる吉田拓郎が歌う名曲『落陽』。この歌詞には現在の苫小牧港西港区から仙台行きのフェリーに乗って旅の帰途に就く“若者”と旅の途中に出会った“じいさん”との一期一会の交わりの情景がつつられています。今回の北海道みなとまち紀行・苫小牧編②では、この『落陽』にインスピレーションを受け、JR 苫小牧駅から一昨年就航 50 周年を迎えたフェリーが着岸する苫小牧西港フェリーターミナルまで、みなとまち・苫小牧の時代のうつろい、季節のうつろいの中を妄想しながら巡っていきます。

【苫小牧駅前通り】

さてスタート地点として苫小牧駅を選んだのは、この若者、『落陽』を作詞した岡本おさみ自身が道内の旅を終えて苫小牧港から帰路のフェリーに乗るために苫小牧の地に降り立つのは苫小牧駅に違いないと考えたからです。『落陽』が発表されたのは、今から半世紀前の昭和 48 年（1973）12 月。その頃の日本は、その前年昭和 47 年（1972）2 月に札幌冬季オリンピックが開催、また日本列島改造論を発表した田中角栄が内閣総理大臣に就任、一方で同年 2 月にあさま山荘事件が勃発、そして翌年の昭和 48 年（1973）10 月には第四次中東戦争によりオイルショックが始まるというような時代の大きな渦の中にありました。そんな時代に苫小牧駅で列車を降りた若者の眼には、右手に「王子製紙（株）苫小牧工場」の高くそびえる紅白の煙突が、海側に続く駅前通りの右側奥には長らく市民に愛された「鶴丸百貨店」が見えたことでしょう。



『落陽』が歌われた当時と思われる苫小牧駅前通り。「鶴丸百貨店」は、大正 10 年（1921）創業の中島呉服店が、昭和 27 年（1952）に開業した苫小牧初の百貨店だったが、平成 14 年（2002）に終止符を打つ。当時の駅前通りの象徴だった（苫小牧市発行『目でみる苫小牧の百年』より引用）

【ふるさと海岸】

さて現在の私は、駅前通りを昔から続く、若者とじいさんがここで出会ったかもしれない繁華街や苫小牧編①でご紹介した「第一洋食店」を横目にしながらまっすぐ進み、また若者は左に折れたかもしれない国道 235 号（国道 36 号との重複区間）を横断して住宅街を抜けて行きます。すると間もなく「ふるさと海岸（地図①）」に到着します。この



海や入出港する船が眺められる絶好のロケーションでもある「ふるさと海岸」

海岸は泳ぐことはできませんが、砂浜では苫小牧港を出入りする大きな船を眺めたり、波音を聴いたりしながらバーベキューを楽しめるので、夏場を中心に家族連れや若者でにぎわう苫小牧市民の憩いの場になっています。

【海の駅ぷらっとみなと市場】

歩き始めたばかりですが、もうお腹が減ってきました。お腹を満たすために、漁港区周辺に向かうことにします。苫小牧港はホッキガイの水揚げ量が23年連続日本で、ホッキガイは「苫小牧市の貝」にもなっています。今回は「みなとオアシス苫小牧」の構成施設にもなっている「海の駅ぷらっとみなと市場(地図②)」で、すっかり全国区になった「ホッキカレー」をいただくことにします。市場に足を踏み入れ、ホッキガイ、カレイをはじめ地元産の新鮮な魚介類が並ぶ店先を進むと食堂があります。ホッキカレーのほかにも海鮮丼、焼き魚定食など魅力的なメニューが並びますが、今回は初志貫徹、ホッキカレーをいただきました。大満足。



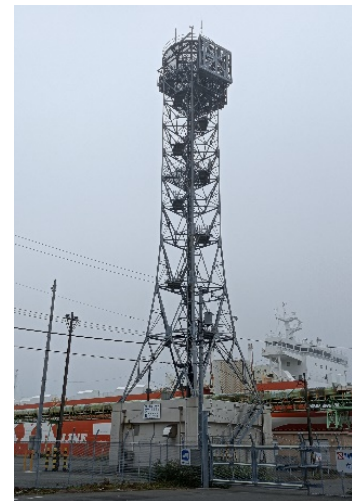
海の駅ぷらっとみなと市場のルートは昭和29年(1954)苫小牧駅前にあった朝市。現在、市場では物販10店舗、飲食11店舗が軒を並べている(上)
苫小牧名物・ホッキカレー(右)



【本港地区】

お腹もいっぱいになったところで、いよいよフェリーターミナルに向かいます。苫小牧港は平成13年(2001)から連続で日本一の国内貨物取扱量となっていますが、それをけん引するのが貨物を積ん

だトラックがそのまま乗り降りできるフェリーやRORO船で、それらの船の多くが港の入口近くにある本港地区を利用しています。最終目標のフェリーターミナルも本港地区にあります。ぷらっとみなと市場から本港地区に向かって歩いていく



船舶の安全を見守る管制信号

と、「管制信号(地図③)」が見えてきます。管制信号はその先端に取り付けてある電光盤でI(入航信号)、O(出航信号)、F(自由信号)、X(禁止信号)のいずれかのサインを表示して、苫小牧港を出入りする船舶の安全確保に大きな役割を果たしています。そこを後にして緑色の屋根のかまぼこ型倉庫にそって歩くと、左手に街路樹が植えられた通りが見えてきます。ちょっと寄り道してその通りを歩き、振り返ると、道の延長上にある倉庫の間からフェリーとともに北海道と本州等の間の海上物流を支えるRORO船が見えました。

苫小牧港西港区は平らな砂浜を掘り込んで造った港なので、日常生活の中でその全景を見る機会がなかなかないのが残念ですが、このように街路樹のある通りの先に大きなRORO船の姿が見られる風景(地図④)は、苫小牧ならではの風景です。



RORO船の見える街路

【キラキラ公園】



苫小牧港の北埠頭にある、市民の憩いの場「キラキラ公園」。写真は新名所のモニュメント(上) 映画のワンシーンのような幻想的な“けあらし”に出合えることも(右)



もとの道に戻り、少し歩くと、苫小牧編①でもご紹介した「キラキラ公園(地図⑤)」に到着します。ここもみなとオアシス苫小牧の構成施設になっていて、色とりどりのRORO船にトラックが貨物を積み降ろしする様子を間近に見ることができたり、港を出入りする大きな船が眺められたりする市民憩いの場になっています。キラキラ公園には開港60周年を記念して、昨年8月“TOMAKOMAI”のモニュメントが設置されました。モニュメントと船を背景に記念撮影するのも楽しそうです。また、暖かい季節だけでなく、放射冷却現象により物凄く寒いのですが晴れた穏やかな冬の朝には、“けあらし

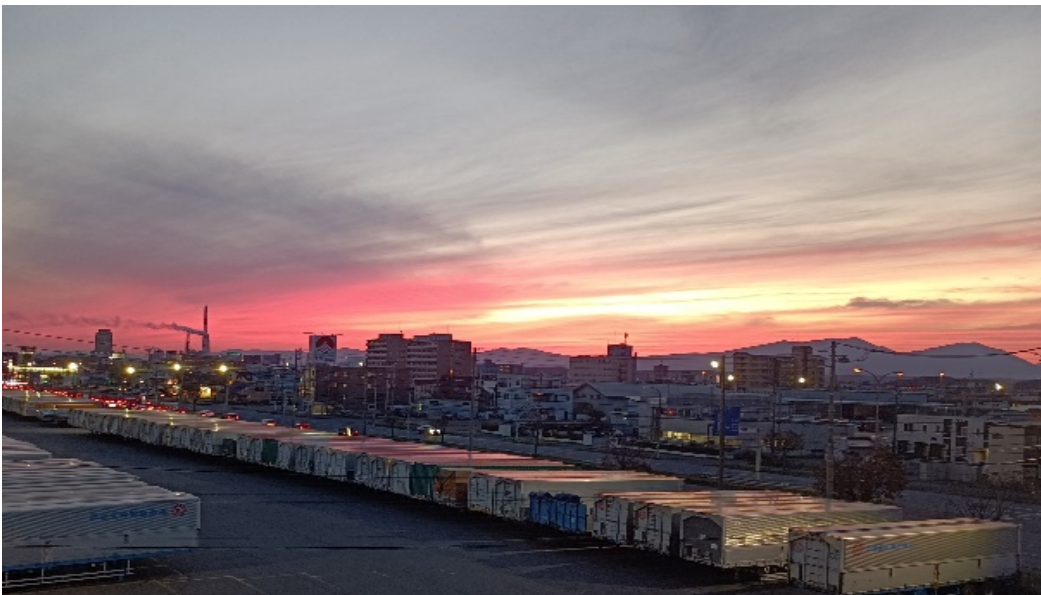
(海面から立ち上る水蒸気が冷やされて発生する霧)”の中を船が進む幻想的な風景に出合えます。冬の風景も見逃せませんねえ。さて視線を左手前方に向けると、フェリーの頭が見えています。いよいよフェリーターミナルが近づいてきたようです。

【苫小牧西港フェリーターミナル】

もう夕方になりました。フェリーターミナルに向かうため、キラキラ公園から続くコスモスの咲く小道を歩き、ふと振り返ると、高い煙突から樽前山の方向に“夕陽の赤”がにじんできています。夕陽を横に浴びながらアクセス道路沿いの歩道を行くと、「苫小牧西港フェリーターミナル(地図⑥)」に到着します。若者と見送りに来たじいさんの別れの風景が思い浮かびます。じいさんはここで土産にサイコロ二つを若者に手渡します。実は『落陽』が発表された昭和48年(1973)は仙台-名古屋行きフェリーが4月に就航した年でもあり、若者・岡



3隻のフェリーが停泊している「苫小牧西港フェリーターミナル」(苫小牧港管理組合より提供)



『落陽』の歌詞にも登場した夕陽の赤がにじむ夕景。岡本おさみが見た夕景も、たぶん、こんな色だったに違いない。この後、さらに赤みを帯び苫小牧港全体が赤く染まる

本おさみは就航直後の仙台行きフェリーに乗っていたこととなります。いろいろな解釈があると思いますが、じいさんは新しいことに食欲に挑戦する若者に未来を見だし、“頼むぞ”と二つのサイコロを手渡すことで自分がかめなかった未来を若者に託したような気がします。

【苫小牧ポートミュージアム】

妄想しながらの苫小牧みなと巡りももうそろそろ終わりです。今、苫小牧港周辺ではカーボンニュートラル社会の実現に向けた脱炭素化のための様々な取り組みが動き出しています。本編で取り上げたフェリーについては、CO₂発生量をこれまでより大幅に削減できる LNG 燃料フェリーが令和7年（2025）初頭に就航予定となっています。また港湾地域の脱炭素化に集中的に取り組むための「苫小牧港港湾脱炭素化推進計画」が作られ、港周辺に立地する複数の企業が連携して脱炭素化に取り組む計画も次々と打ち出されてきています。今度は今を生きる私たちが、これらを良い土産として未来の若者に手渡していく番なのかもしれない、そんなことを『落陽』を通じて考えてしまいました。さて、苫小牧港周辺には他にも様々な魅力が散在していますので、また機会があればご紹介させていただきたいと思います。

今回の最終目的地、「苫小牧西港フェリーター



苫小牧の港とフェリーについて詳しく紹介されている「苫小牧ポートミュージアム」(上)

苫小牧西港フェリーターミナルの売店で売られているサイコロ(右)



ミナル」はみなとオアシス代表施設にもなっていて、3階にある「苫小牧ポートミュージアム」では港とフェリーの魅力などが分かりやすく紹介されています。苫小牧港に来られる機会があれば、是非こちらにもお立ち寄りください。フェリーターミナルの売店では“サイコロ二つ”もお土産として買えますよ。

(平澤充成 記)

【今回の散策ルート】



— JR苦小牧駅 → ①ふるさと海岸 → ②海の駅ふらっとみなと市場 → ③管制信号 →
 → ④RORO船の見える街路 → ⑤キラキラ公園 → ⑥苦小牧西港フェリーターミナル

【今回散策した箇所のミニ情報】

地図①

ふるさと海岸

苫小牧市汐見町 3 丁目 4-14

電話 0144-34-5551

(苫小牧港管理組合)

地図②

海の駅ぶらっとみなと市場

苫小牧市港町 2-2-5

電話 0144-33-3462

定休 水曜(祝日は営業)

営業時間 7:00~16:00

地図③

管制信号

苫小牧市港町 1 丁目 6-15

※苫小牧港では、総トン 500 トン以上の船舶に対して管制信号を実施し、港の船舶交通を管制している。下記のサイトは海上保安庁が発行している信号の方法と意味が紹介されている。

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/01kanku/muroran/anzen/shingokansei.pdf>

地図⑤

キラキラ公園

苫小牧市入船町 3 丁目 1

電話 0144-34-5551

(苫小牧港管理組合)

地図⑥

苫小牧西港フェリーターミナル

苫小牧市入船町 1 丁目 2-34

電話 0144-33-9261

※施設内にはコンビニエンスストア「メモリア」(電話 0144-34-4171、営業時間 8:00~23:00)があり、苫小牧銘菓や海産物、乳製品、全道各地のノベルティ商品を多数用意。

苫小牧ポートミュージアム

苫小牧市入船町 1 丁目 2-34 苫小牧西港フェリーターミナル 3F

電話 0144-33-9261(総合案内所)

定休 なし

開館時間 8:00~20:00

入場料 無料

<連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階

e-mail アドレス mail@minatobunka-npo.info

ホームページ <https://minatobunka-npo.info>